

2

*Red Data Book of Wakayama Prefecture*

鳥  
類

## 鳥類の概要

沼野 正博

和歌山県内では、2018年3月1日現在、362種の野鳥が記録されている。(沼野, 2018)。このうち、留鳥が18%、夏鳥が9%、冬鳥が29%、旅鳥が21%、迷鳥が23%である。また、繁殖が確認されているのは100種である。

和歌山県の鳥類の生息環境は、戦後30年ほどで大きく変化した。人工林化による自然林の減少、開発や河川改修等による湿地の減少、農薬の使用による生物の死滅等、多くの野鳥が生息環境を失い、また餌の減少に直面して、個体数を減少させた。その後、生息環境の悪化はそれほど進んでいるようには見えないが、回復も進んでいないため、多くの野鳥は個体数が減少した状態が続いている。また近年はニホンジカが増加し、落葉樹林帯の林床に生えていたササ類や灌木が激減し、そのような環境を生息場所にしてきた種に大きな影響が出ている。

前回までに引き続き、レッドリスト掲載種の多くは、生態的上位種や、湿地等、生息環境に限られる種である。これは、このような種が、自然環境の悪化の影響を最も受けやすいことが最大の理由である。一方、身近な場所に生息する野鳥もいくつかランクインしている。このことは、身近な環境に生息する野鳥にも、生息環境の悪化の影響を受けている種があることを示唆している。

今回、レッドリストの改訂に当たり、初版の選定で用いた8つのカテゴリー、「季節性」、「繁殖状況」、「定期性」、「個体数」、「個体数の増減」、「生息環境」、「生息環境の面積」、「抑圧要因」の観点から、危険度ランクを再度検討した。更に、最終的にランクを決定する際には、全国版レッドリスト、近畿地区レッドデータブック及び近畿各府県のレッドリストを参考に用いた。

今回、新たにランクインしたのは7種である。ジュウイチ、カッコウ、ツツドリのカッコウ類は、個体数が減少しているだけでなく、託卵対象種であるコマドリやコルリ、落葉樹林帯のウグイス等が減少していることも考慮して、記載することにした。バンは近年の個体数の減少が著しいこと、ヒメアマツバメはいくつかのコロニーが消失していることを重視し、記載することにした。カンムリウミスズメは、繁殖期に海での観察例がいくつかあり、調査により巢の可能性のある穴も確認されたが、明確な繁殖確認ができず、情報不足として記載することにした。繁殖が確認されれば、その希少性から、絶滅危惧Ⅰ類に記載すべきと考えている。シマクイナは、調査により冬季に複数箇所複数個体の生息が確認され、継続した越冬が強く示唆されるが、調査データが少ないため、情報不足として記載することにした。継続した調査によりデータが蓄積され、越冬地としての利用が確認されれば、絶滅危惧Ⅰ類に記載すべきと考えている。

ランクアップは、4種である。コアジサシとコマドリは、観察例は通過個体のみで、15年以上県内での繁殖が確認されていないことから、絶滅危惧ⅠA類とした。ヤマセミも確認例が非常に少なく、個体数の減少が著しいと判断して、絶滅危惧ⅠA類とした。ヨシゴイも10年以上繁殖確認がなく、観察例も激減していることから、絶滅危惧ⅠB類にアップさせた。

ランクダウンは3種である。ヨタカは、個体数はまだかなり少ないと考えられるが、繁殖例や確認例が以前よりも増えているため、絶滅危惧ⅠB類にダウンさせた。ヤマシギも、確認例が増えていることから、絶滅危惧Ⅱ類にダウンさせた。サンショウクイは、繁殖確認も増えていることから、準絶滅危惧にダウンさせた。

ランクアウトは2種である。ハイイロチュウヒは、近年の越冬例が激減しており、定期的なしと判断したので、記載から外した。キビタキは、個体数が回復し、各地で確認されるようになったことから、記載から外した。

2012年改訂版で「学術的重要」として記載していたウミネコとアマツバメは、引き続きその価値を認め、継続して記載することにした。

一度失われた自然環境を回復することは、非常に難しい。高度経済成長期に著しく進行した自然環境の悪化は、現在その進行が止まった段階で、まだ回復には至らない。そのため多くの種では、個体数の回復が見られない状態である。渡り鳥にとっては、越冬地である東南アジア等の生息環境の悪化の影響もあるのではないかとされている。レッドリスト掲載種については、引き続き個体数の把握と生息環境の保全に取り組むとともに、和歌山県内だけでなく、他の地域の状況も注視していく必要がある。

(参考文献)

- 1 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.

## ●絶滅危惧ⅠA類 (CR)

オオヨシゴイ  
ミゾゴイ  
コアジサシ  
ヤマセミ  
ブッポウソウ  
ヤイロチョウ  
コマドリ

## ●絶滅危惧ⅠB類 (EN)

ウズラ  
ヨシゴイ  
タマシギ  
ヨタカ  
クマタカ  
コミミズク  
コノハズク  
アカショウビン

## ●絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

トモエガモ  
ササゴイ  
クロサギ  
ナベヅル  
ヒクイナ  
ジュウイチ  
ヤマシギ  
チュウヒ  
オオタカ  
オオコノハズク  
アオバズク  
フクロウ  
ハヤブサ  
サンコウチョウ  
ウチヤマセンニュウ

キバシリ  
コルリ

## ●準絶滅危惧 (NT)

ヤマドリ  
オシドリ  
チュウサギ  
クイナ  
バン  
ツツドリ  
カッコウ  
ヒメアマツバメ  
イカルチドリ  
シロチドリ  
ミサゴ  
ハチクマ  
ツミ  
ハイタカ  
サシバ  
アカゲラ  
オオアカゲラ  
サンショウクイ  
コシアカツバメ  
トラツグミ  
クロツグミ  
コサメビタキ

## ●情報不足 (DD)

カンムリウミスズメ  
シマクイナ

## ●学術的重要 (SI)

ウミネコ  
アマツバメ

オオヨシゴイ *Ixobrychus eurhythmus* (Swinhoe, 1873) ペリカン目 サギ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I A 類 (CR)	旧県	2012	絶滅危惧 I A 類 (CR)	国	絶滅危惧 I A 類 (CR)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	-----------------

選定理由

小型のサギで、夏鳥として本州中部以北に渡来する。湿地やヨシ原に生息し、和歌山県内では主に旅鳥として渡り途中の個体が通過していたと考えられるが、ここ 30 年以上観察例がない。全国的にも生息地や個体数が減少している。

これまで、和田不毛（美浜町）、日高川、富田川などで記録されている。

執筆者（沼野正博）



鳥類

参考文献・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人 日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：蔵重麗子提供（県外撮影）

ミゾゴイ *Gorsachius goisagi* (Temminck, 1835) ペリカン目 サギ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I A 類 (CR)	旧県	2012	絶滅危惧 I A 類 (CR)	国	絶滅危惧 II 類 (VU)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	----------------

選定理由

低山の林に夏鳥として渡来し、繁殖するが、全国的にも個体数が減少している。繁殖期には、「ポー、ポー」と低い声で鳴き、樹上に営巣する。暖地では、越冬するものもある。

和歌山県内各地で、時々鳴き声の報告例はあるが、継続した確認例はほとんどなく、これらは渡り途中の通過個体と思われる。冬季の観察も 1 例あり、これは越冬個体と思われる。

和歌山県内では 20 年以上繁殖記録がなかったが、ここ数年で 2 例の繁殖記録が報告された。国ランクでも、準絶滅危惧から一時絶滅危惧 I B 類にランクアップされたが、現在は絶滅危惧 II 類にランクダウンされたので、個体数が回復傾向にあると考えられ、県内の状況も注視していきたい。

執筆者（沼野正博）



参考文献・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人 日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 佐々木 歩. 2020. 和歌山県紀美野町におけるミゾゴイの観察記録. 南紀生物, 62 (1) : 58-59.
  - 6 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 7 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

コアジサシ *Sterna albifrons* Pallas, 1764 チドリ目 カモメ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I A 類 (CR)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	絶滅危惧 II 類 (VU)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	----------------

## 選定理由

夏鳥として渡来し、海岸やその付近の空き地、河川敷、中州等で繁殖するが、繁殖適地が激減しており、個体数も減少している。造成地などで一時的にコロニーが生じて、草が茂ると繁殖しなくなるので、繁殖適地の状況は、非常に不安定である。

和歌山県内では、渡り鳥として春と秋に観察されるが、観察例は多くない。繁殖は、ここ 30 年以上確認されていない。大阪湾内では、いくつかの大規模なコロニーが存在するので、そこから飛来する個体もあり、動向を注視していきたい。

執筆 (沼野正博)



## 参考文献・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人 日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真: 上野憲三提供

ヤマセミ *Ceryle lugubris* (Temminck, 1834) ブッポウソウ目 カワセミ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I A 類 (CR)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	—
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	---

## 選定理由

九州以北の溪流に、留鳥として生息する。川岸やその近くの土の崖に横穴を掘り、その中で繁殖する。水辺の枝や岩等に止まってねらいを定め、ときには停空飛翔してから水中に飛び込み、魚を捕らえる。

和歌山県内では、主要河川の上流部に留鳥として生息するが、観察例が激減しており、個体数の減少が著しいと思われる。広い縄張りが必要とするので、もともと生息密度が低かったことに加え、河川整備や道路工事等の影響により、繁殖適地が減少したことも影響していると思われる。前回、絶滅危惧 I B 類にランクアップしたが、確認例が更に減少していることから、絶滅危惧 I A 類にランクアップさせた。

執筆 (沼野正博)



## 参考文献・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真: 沼野正博撮影

ブッポウソウ *Eurystomus orientalis* (Linnaeus, 1766) ブッポウソウ目 ブッポウソウ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I A 類 (CR)	旧県	2012	絶滅危惧 I A 類 (CR)	国	絶滅危惧 I B 類 (EN)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	-----------------

選定理由

九州から本州の山地の林に夏鳥として渡来する。大きな杉のある林の周辺に生息し、樹洞で繁殖するが、最近では橋などの建造物や巣箱で繁殖する個体も増えている。中国地方や本州中部では巣箱を設置し、保護した結果、個体数が回復している地域もある。

和歌山県内では、夏鳥として高野山や護摩壇山周辺などに局所的に生息していたが、全て 20 年以上前に生息確認が途絶え、近年は観察例もほとんどない。

国ランクでも、絶滅危惧 II 類から絶滅危惧 I B 類にランクアップしている。

執筆者 (沼野正博)



鳥類

参考文献・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人 日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真: 沼野正博撮影 (県外撮影)

ヤイロチョウ *Pitta brachyura* (Linnaeus, 1766) スズメ目 ヤイロチョウ科

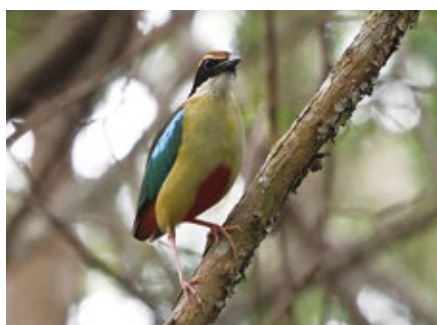
県カテゴリー	絶滅危惧 I A 類 (CR)	旧県	2012	絶滅危惧 I A 類 (CR)	国	絶滅危惧 I B 類 (EN)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	-----------------

選定理由

西南日本の低山の林に夏鳥として渡来し、溪流沿いの自然度の高い常緑広葉樹林に生息する。湿った林床で、ミミズや昆虫などを餌とする。繁殖期の初期には、「ポポピー、ポポピー」と鳴く。全国的にも分布が局地的で、個体数の減少が著しい。

和歌山県内では、主に紀南地方の照葉樹林に局所的に生息していた。繁殖確認もされていたが、その後 20 年以上確認されなくなっていた。しかしここ数年、新たな繁殖確認や繁殖を示唆する行動（継続的なさえずり）が確認されたことから、生息密度は低いものの、県内での生息は、継続して保たれていると考えられる。

執筆者 (沼野正博)



参考文献・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人 日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真: 沼野正博撮影

コマドリ	<i>Erithacus akahige</i> (Temminck, 1835)	スズメ目	ヒタキ科			
県カテゴリー	絶滅危惧 I A 類 (CR)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	—

九州以北の山地帯から亜高山帯の落葉樹林や針葉樹林に、夏鳥として渡来する。特に、林床にササ類が生えた森林に生息する。「ヒンカララララ」とさえずり、日本三鳴鳥の一つとされる。

## 選定理由

和歌山県内では、護摩壇山や果無山脈、大塔山等のブナ林で繁殖していたが、ニホンジカの食害によってササ類が壊滅状態になり、ここ 15 年以上繁殖が確認されていない。生息の回復には、林床の植生の回復が必要で、容易ではない。渡り途中の個体は、現在でも確認されており、低地で見られる。



執筆者 (沼野正博)

## 参考文献・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

ウズラ	<i>Coturnix japonica</i> Temminck & Schlegel, 1849	キジ目	キジ科			
県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	絶滅危惧 II 類 (VU)

## 選定理由

平地から山地の草原や農耕地に生息し、本州中部以北で繁殖し、本州中部以南で越冬する。全国的にも減少しており、国ランクでも情報不足から準絶滅危惧にランクインした後、絶滅危惧 II 類にランクアップされた。

和歌山県内では、旅鳥または冬鳥として河川敷や農耕地で確認されているが、観察例は多くない。

執筆者 (沼野正博)



## 参考文献・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人 日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：藏重麗子提供 (県外撮影)



ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i> (Gmelin, 1789)	ペリカン目	サギ科			
県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 II 類 (VU)	国	準絶滅危惧 (NT)

夏鳥として九州以北に渡来し、河川敷や湿地のヨシ原等で繁殖する。日本に生息するサギ類では最も小さい。河川改修や水田整備等により、生息適地が減少しており、全国的にも個体数が減少している。

**選定理由** 和歌山県内では、主な河川の河川敷、阿尾不毛等の湿地、休耕田や用水路等のヨシ原で観察され、繁殖も確認されていたが、近年繁殖は確認されておらず、確認例も激減している。



執筆者（沼野正博）

**参考文献・情報**

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人 日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

タマシギ	<i>Rostratula benghalensis</i> (Linnaeus, 1758)	チドリ目	タマシギ科			
県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	絶滅危惧 II 類 (VU)

本州中部以南に、留鳥として生息する。主に夜間に活発に活動し、繁殖期には雌が「コー、コー、コー」と鳴く。一妻多夫の繁殖形態を持ち、雄が抱卵・育雛を行う。主に水田や休耕田で繁殖するが、水田の整備等で繁殖適地が減少しており、また餌となる昆虫や貝類、甲殻類の減少等もあり、全国的に個体数が減少している。

**選定理由** 和歌山県内では、各地に留鳥として生息し、水田や湿地、水路等で見られる。繁殖例は非常に少なく、冬季の観察がほとんどであるが、近年は観察例も激減している。



執筆者（沼野正博）

**参考文献・情報**

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人 日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

ヨタカ *Caprimulgus indicus* Latham, 1790 ヨタカ目 ヨタカ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I A 類 (CR)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	------------

夏鳥として九州以北に渡来し、平地から山地の林に生息する。夜行性で、夕方から活動し、林や草原の上を飛び回って昆虫を捕らえて餌とする。繁殖期には、「キョッキョッキョッキョッ…」と長く続けて鳴く。全国的にも個体数が減少している。



## 選定理由

40年以上前は、和歌山県内各地に生息しており、人家近くでも確認されていたが、その後急減し、近年は自然度の高い山地周辺でのみ観察されている。

最近では、繁殖確認や繁殖を示唆する行動（継続したさえずり）が増えており、以前よりは個体数が回復しているものと思われる。国ランクでも、ランク外から絶滅危惧 II 類にランクインした後、準絶滅危惧にランクダウンされた。

執筆者（沼野正博）

## 参考文献・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人 日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：藏重麗子提供（県外撮影）

クマタカ *Spizaetus nipalensis* (Hodgson, 1836) タカ目 タカ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	絶滅危惧 I B 類 (EN)
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	-----------------

全国各地に、留鳥として生息する。山地の自然度の高い林で繁殖し、大きな縄張りが必要とするため、もともと生息密度が低い。警戒心が強く、人の近づきやすい場所では営巣しないため、営巣適地が少ない。ノウサギ、ヤマドリ、ヘビ類などを主な餌としている。



## 選定理由

和歌山県内では、各地の山地に生息するが、生息密度は高くない。和歌山県内に生息するタカの仲間では最も大きく、生態系の頂点に位置する種である。人工林の増加による繁殖適地が減少したことにより、個体数が減少し、近年は風力発電施設が尾根上に設置されることにより、繁殖適地が消失する例があり、懸念される。

執筆者（沼野正博）

## 参考文献・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人 日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

コミミズク *Asio flammeus* (Pontoppidan, 1763) フクロウ目 フクロウ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	—
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	---

冬鳥として全国に渡来し、河川敷や埋め立て地、農耕地等に生息する。日中はあまり活動せず、夕方から活発に活動し、ネズミ等の小動物を餌とする。

選定理由 和歌山県内では、広い河川敷や農耕地等、生息に適した場所がほとんど失われ、観察例が激減している。ここ 20 年の観察例は、渡り途中と思われる個体がほとんどで、越冬個体はほとんど確認されていない。



執筆者 (沼野正博)

参考文献  
・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真: 沼野正博撮影 (県外撮影)

コノハズク *Otus scops* (Linnaeus, 1758) フクロウ目 フクロウ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	—
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	---

小型のフクロウで、夏鳥として全国に渡来し、主に落葉樹林帯に生息する。夜行性で、主に昆虫を餌とする。「ブッキョッコー」という声で鳴き、仏法僧と聞きなされる。

選定理由 和歌山県内では、標高の高い落葉樹林帯に生息する。以前は、高野山にも生息していたが、ここ 20 年以上繁殖が確認されていない。人工林化の影響で、生息適地である自然度の高い森林が激減し、それに伴って個体数も激減した。



執筆者 (沼野正博)

参考文献  
・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真: 藏重麗子提供 (県外撮影)

アカショウビン *Halcyon coromanda* (Latham, 1790) ブッポウソウ目 カワセミ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I B 類 (EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I B 類 (EN)	国	-
--------	-----------------	----	------	-----------------	---	---

夏鳥として全国に渡来し、溪流沿いのよく茂った林に生息する。魚やカエル、サワガニ、カタツムリ等を餌とし、朽ち木等に穴を掘って繁殖する。

## 選定理由

和歌山県内では、溪流沿いの自然度の高い森林に生息する。以前は主要河川の上流部に広く生息していたが、人工林化の影響で生息適地が減少し、それに伴って個体数も減少している。

執筆者 (沼野正博)



## 参考文献・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

トモエガモ *Anas formosa* Georgi, 1775 カモ目 カモ科

県カテゴリー	絶滅危惧 II 類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧 II 類 (VU)	国	絶滅危惧 II 類 (VU)
--------	----------------	----	------	----------------	---	----------------

小型のカモで、主に本州中部以南に冬鳥として渡来する。西南日本では、他のカモの群れに少数が混じるだけであるが、日本海側の地域では、大きな群れを見ることもある。

## 選定理由

和歌山県内では、数少ない冬鳥として、各地の河川や湖沼に渡来する。

全国的に渡来数が激減しているだけでなく、アジア全体でも個体数の減少が著しく、国際的な希少種である。

執筆者 (沼野正博)



## 参考文献・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人 日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

ササゴイ *Butorides striatus* (Linnaeus, 1758) ペリカン目 サギ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	—
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

夏鳥として九州から本州に渡来し、海岸及び海岸近くの林で、集団で繁殖する。河口や河川で見られることが多く、魚を餌とする。暖地では越冬する。

和歌山県内では、紀南地方を中心に観察されるが、**選定理由** 確認例が激減している。鹿島（みなべ町）や橋杭岩等で繁殖していたが、20年以上繁殖は確認されていない。近年は、繁殖期の確認はほとんどなく、確認例はほとんどが冬季である。



執筆者（沼野正博）

## 参考文献・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

クロサギ *Egretta sacra* (Gmelin, 1789) ペリカン目 サギ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	—
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

本州以南の海岸に、留鳥として生息する。主に外海に面した海岸で、魚等を捕らえる。和歌山県内で見られる個体は全身黒色であるが、奄美諸島以南では、全身白色の個体も見られる。

和歌山県内では、各地の海岸に留鳥として生息する。**選定理由** 海岸や島の、岩棚や樹上に皿状の巣を作り繁殖する。円月島（白浜町）等で、繁殖が確認されているが、レジャー等による人間の立ち入りによって、繁殖環境が攪乱されている。



執筆者（沼野正博）

## 参考文献・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

ナベヅル	<i>Grus monacha</i> Temminck, 1835	ツル目	ツル科			
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

日本には冬鳥として渡来するが、越冬地は限定的である。鹿児島県出水市周辺では1万羽近くが越冬し、これは世界のナベヅルの80%以上になる。国ランクで絶滅危惧Ⅱ類に選定されているだけでなく、国際的な希少種でもある。



## 選定理由

和歌山県内では、秋には各地で渡り途中の個体が観察されている。御坊市周辺や和歌山市周辺では、越冬することもある。越冬には、餌場となる広い水田地帯と、人が近づかない安心して過ごせるねぐらが必要であるが、そのような適地は限定される。特にねぐらは、紀の川と日高川の決まった場所がねぐらとして利用されており、その場所の環境を守ることが、越冬には重要である。疫病対策のため、越冬地の分散が国レベルで取り組まれており、この2箇所は、今後のナベヅル個体群のためにも、非常に重要であると思われる。

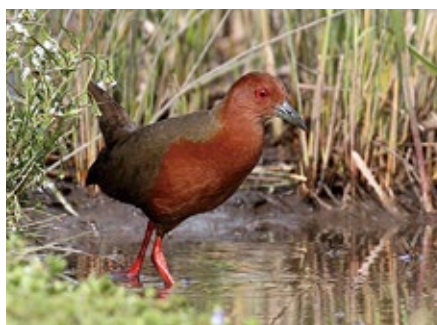
執筆者（沼野正博）

## 参考文献・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人日本野鳥の会, 東京.
  - 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i> (Linnaeus, 1766)	ツル目	クイナ科			
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	準絶滅危惧 (NT)

夏鳥として全国に渡来し、繁殖する。ヨシ原や湿地の草地で生活し、見通しの良い場所にはあまり出てこない。繁殖期に「キョツ、キョツ、キョツキョツキョキョキョ」と、初めゆっくりで次第にテンポの速くなる声で鳴く。



## 選定理由

和歌山県内では、各地の水田や湿地に夏鳥として渡来する。かつては、各地で繁殖が確認されていたが、現在の繁殖場所は限定的であり、個体数の減少が著しい。渡り途中の個体や、冬季の確認例もある。

執筆者（沼野正博）

## 参考文献・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人日本野鳥の会, 東京.
  - 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：藏重麗子提供（県外撮影）

ジュウイチ *Hierococcyx hyperythrus* (Gould, 1856) カッコウ目 カッコウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	—	国	—
--------	-------------	----	------	---	---	---

九州以北に、夏鳥として渡来する。主にコルリに託卵し、オオルリやルリビタキ等にも託卵する。

和歌山県内では、護摩壇山や高野山周辺の落葉樹林帯に生息する。ニホンジカの食害でササ類が激減し、コルリの個体数も減少していることから、ジュウイチの個体数も減少している。

執筆者（沼野正博）



参考文献  
・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影（県外撮影）

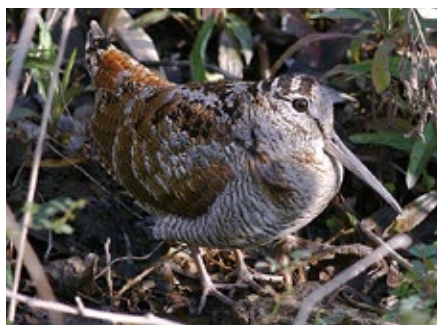
ヤマシギ *Scolopax rusticola* Linnaeus, 1758 チドリ目 シギ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	国	—
--------	-------------	----	------	--------------	---	---

本州中部以北で繁殖し、北の個体は冬季に暖地に移動する。夜行性で、林に生息し、地中のミミズ等の小動物を餌とする。

和歌山県内では、各地の山地や海岸林に冬鳥として生息する。渡り途中の観察例もある。30年以上前に比べて個体数が激減し、確認例も非常に少なかったことから前回は絶滅危惧ⅠB類に選定されていたが、近年は観察例が若干増えており、個体数の回復も予想されるので、絶滅危惧Ⅱ類にランクダウンさせた。なお、2001年版で選定されていなかったのは、狩猟鳥であったためで、それ以前より個体数は激減していた。

執筆者（沼野正博）



参考文献  
・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：藏重麗子提供（県外撮影）

チュウヒ *Circus spilonotus* Kaup, 1847 タカ目 タカ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	絶滅危惧ⅠB類 (EN)
--------	-------------	----	------	-------------	---	--------------

## 選定理由

カラス大のタカで、湿地やヨシ原の上を低く飛び、ネズミ類や小鳥等を捕らえる。主に本州中部以北の、ヨシ原のある広い湿地で繁殖し、冬季は、大陸から飛来した個体も含め、本州中部以南で見られる。日本国内の繁殖地は非常に限定的で、国ランクでは絶滅危惧ⅠB類に選定されている。

和歌山県内では、冬鳥として渡来し、大きな河川や湿地のヨシ原で見られる。紀の川では比較的多く観察されるが、他の地点の観察例は非常に少ない。



執筆者 (沼野正博)

## 参考文献・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人日本野鳥の会, 東京.
  - 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影 (県外撮影)

オオタカ *Accipiter gentilis* (Linnaeus, 1758) タカ目 タカ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-------------	----	------	-------------	---	------------

## 選定理由

カラス大のタカで、本州から北海道の林で繁殖し、冬季は南下する。平地から山地の林に生息し、里山の生態系の頂点に位置する種である。中型の鳥類を主な餌としており、古来より鷹狩りのタカとして用いられてきた。

和歌山県内では、各地の里山に留鳥として生息する。紀南では少なく、紀北の方が生息密度が高い。生息適地が少なく、開発の影響も受けやすいため、引き続き生息状況を注視していく必要がある。



執筆者 (沼野正博)

## 参考文献・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人日本野鳥の会, 東京.
  - 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影



オオコノハズク *Otus lempiji* (Horsfield, 1821) フクロウ目 フクロウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	—
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

小型のフクロウで、留鳥として全国に生息するが、北の方の個体は暖地に移動する。平地から山地の林に生息し、昆虫や小動物等を餌とする。

**選定理由** 和歌山県内では、各地で観察されたが、近年は観察例がほとんどない。もともと観察しづらい種であるが、以前は時々防風ネット等に掛かった個体が保護されたりしたが、近年はほとんどそのようなこともなく、個体数の減少が著しいと推定される。



執筆者 (沼野正博)

## 参考文献・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

アオバズク *Ninox scutulata* (Raffles, 1822) フクロウ目 フクロウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	—
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

夏鳥として全国に渡来し、平地から山地の林に生息する。夜行性で、主に夕方から活動し、大型の昆虫を餌とする。巣は、樹洞に作る。

**選定理由** 和歌山県内では、各地の大木のある社寺林などに生息する。以前は、町中でも繁殖していたが、近年は繁殖が見られなくなった場所が多く、個体数がかなり減少していると推定される。



執筆者 (沼野正博)

## 参考文献・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

フクロウ *Strix uralensis* Pallas, 1771 フクロウ目 フクロウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	—
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

## 選定理由

平地から山地の林に、留鳥として生息する。樹洞で繁殖し、夜行性でネズミ等を餌とする。「ゴロスケホッホッ」という鳴き声で、里山のフクロウとして、古くから親しまれてきた種である。和歌山県内に生息するフクロウ類では、最も大きい。

和歌山県内では、各地に留鳥として生息する。繁殖に樹洞を必要とするため、大木の残る社寺林に生息することが多い。生息適地の減少や、餌となる小動物の減少で、個体数が激減した。



執筆者 (沼野正博)

## 参考文献・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

ハヤブサ *Falco peregrinus* Tunstall, 1771 ハヤブサ目 ハヤブサ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	-------------	---	-------------

## 選定理由

九州以北に留鳥として生息し、海岸及びその付近の崖で繁殖する。近年は、都市のビルで繁殖する個体も増えている。海岸や河川敷、農耕地など開けた場所でよく見られ、飛んでいる中型の鳥類を、急降下して足で捕らえる。

和歌山県内では、各地の海岸近くに留鳥として生息する。和歌山県内の海岸には崖地が多いが、ハヤブサの営巣に適している場所はそれほど多くなく、また繁殖適地であっても、人が近づく場所では繁殖できないため、繁殖場所が限定される。そのため、繁殖適地を保護することが、ハヤブサ保護のためには重要である。



執筆者 (沼野正博)

## 参考文献・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人 日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata* (Eyton, 1839) スズメ目 カササギヒタキ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	—
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

**選定理由**

本州以南の、平地から山地のよく茂った林に、夏鳥として渡来する。雄の尾が非常に長いのが特徴で、さえずりは「月・日・星・ホイホイ」と聞こえる。

和歌山県内では、各地の人里近くの照葉樹林に生息する。紀北に比較的多い。個体数は一時激減していたが、近年は若干回復傾向にある。

執筆者（沼野正博）



鳥類

- 参考文献・情報**
- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

ウチャマセンニュー *Locustella pleskei* Taczanowski, 1889 スズメ目 センニュー科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	絶滅危惧ⅠB類 (EN)
--------	-------------	----	------	-------------	---	--------------

**選定理由**

伊豆諸島以西の、島や海岸の林に、夏鳥として渡来する。分布は局地的で、生息環境も非常に限定的であるため、世界的にも個体数が少ない。国ランクでは、以前絶滅危惧Ⅱ類であったが、絶滅危惧ⅠB類にランクアップされた。

和歌山県内では、紀南の島や海岸に夏鳥として渡来する。孔島・鈴島（新宮市）、九龍島（串本町）、橋杭岩（串本町）、黒島（すさみ町）、畠島（田辺市）、鹿島（みなべ町）等で繁殖する。江須崎（すさみ町）のように、よく茂った照葉樹林には見られない。今のところ個体数は安定しているが、生息環境が限られるため、生息環境の保全には注意していかなければならない。

執筆者（沼野正博）



- 参考文献・情報**
- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人日本野鳥の会, 東京.
  - 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

キバシリ *Certhia familiaris* Linnaeus, 1758 スズメ目 キバシリ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	—
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

四国以北の、山地の針葉樹林帯に留鳥として生息する。木の幹に縦に止まり、餌を探しながら螺旋状に上る行動を繰り返す。

## 選定理由

和歌山県内では、標高の高い、針葉樹が混じる森林に留鳥として生息する。高野山のスギやコウヤマキの林、護摩壇山周辺や果無山脈等のツガ林等が主な生息地だが、分布が局地的で個体数が少ない。

執筆者 (沼野正博)



## 参考文献・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

コルリ *Luscinia cyane* (Pallas, 1776) スズメ目 ヒタキ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	—
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

本州中部以北の、山地帯から亜高山帯の林に、夏鳥として渡来する。主に林床にササ類や灌木のよく茂る、落葉樹林に生息する。

## 選定理由

和歌山県内では、護摩壇山、果無山脈、大塔山等の落葉樹林帯に夏鳥として渡来する。ニホンジカの食害により、ササ類や灌木が激減しており、生息環境の悪化が著しく、個体数も減少している。

執筆者 (沼野正博)



## 参考文献・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

ヤマドリ *Symnaticus soemmerringii* (Temminck, 1830) キジ目 キジ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—
--------	------------	----	------	------------	---	---

日本固有種で、本州から九州の平地から山地のよく茂った林に、留鳥として生息する。

## 選定理由

和歌山県内では、各地の山地の林に、留鳥として生息する。人工林化による生息適地の減少で、個体数が減少している。なお、2001年版で選定されなかったのは、狩猟鳥であったためで、それ以前より個体数は減少していた。

執筆者 (沼野正博)



参考文献  
・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
- 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
- 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
- 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.

写真：入江正己提供

オシドリ *Aix galericulata* (Linnaeus, 1758) カモ目 カモ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	情報不足 (DD)
--------	------------	----	------	------------	---	-----------

## 選定理由

全国の山間部で繁殖し、冬季は南下する。巣は樹洞に作られる。警戒心が強く、開けた場所にはあまり出てこない。冬季は、ドングリなどを餌とする。日本で繁殖する数少ないカモの仲間で、全国的にもあまり個体数が多い。国ランクでは、最初希少種に指定されていたのが、途中でランク外となり、現在は情報不足とされている。

和歌山県内では、高野山で繁殖記録はあるが、多くは冬鳥として渡来し、各地の河川や湖沼に生息する。主に山間地で見られ、ダム湖に大きな群れが見られることがある。



執筆者（沼野正博）

参考文献  
・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人 日本野生生物センター, 東京.
- 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
- 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
- 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
- 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
- 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.

写真：沼野正博撮影

チュウサギ *Egretta intermedia* (Wagler, 1829) ペリカン目 サギ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	------------	---	------------

## 選定理由

九州から本州に、夏鳥として渡来する。他のサギ類と一緒に繁殖コロニーを形成する。主に昆虫や小動物、魚などを餌とする。糞害等のために営巣地を追われる等、全国的に個体数が減少している。

和歌山県では、夏鳥または旅鳥として渡来する。繁殖個体は激減しており、稀である。渡りの時期には比較的多く観察されるが、以前に比べて個体数は減少している。



執筆者（沼野正博）

参考文献  
・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人 日本野生生物センター, 東京.
- 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
- 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
- 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.

参考文献  
・情報

- 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.  
 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.  
 写真: 沼野正博撮影

クイナ *Rallus aquaticus* Linnaeus, 1758 ツル目 クイナ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

## 選定理由

本州北部以北で繁殖し、本州中部以南で越冬する。ヨシ原や草地に棲み、開けた場所にはあまり出でこない。昆虫や貝類、甲殻類などを主な餌とするが、植物の種子も食べる。

和歌山県内では、各地の河川や湿地に冬鳥として渡来する。開発や河川整備等の影響でヨシ原が減少し、それに伴って個体数も減少している。

執筆者 (沼野正博)

参考文献  
・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.  
 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.  
 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.  
 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.  
 写真: 沼野正博撮影

バン *Gallinula chloropus* (Linnaeus, 1758) ツル目 クイナ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

## 選定理由

各地で繁殖するが、本州北部以北の個体は、冬季暖地に移動する。河川や湖沼、湿地、水田等で繁殖する。

和歌山県内では、各地に留鳥として生息し、繁殖している。冬季には、個体数が増加する。以前はごく普通に観察されたが、近年は観察例が減少しており、かなり個体数が減少していると思われる。繁殖確認は激減している。

執筆者 (沼野正博)

参考文献  
・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.  
 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.  
 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.  
 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.  
 写真: 沼野正博撮影

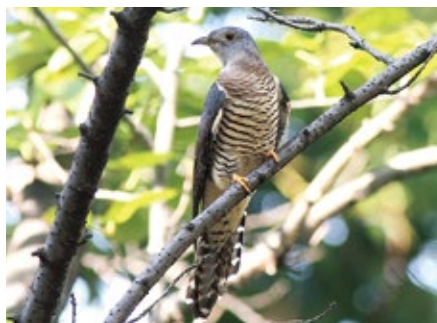
ツツドリ *Cuculus optatus* Gould, 1845 カッコウ目 カッコウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

九州以北に、夏鳥として渡来する。主にセンダイムシクイに託卵する。

**選定理由** 和歌山県内では、落葉樹林帯や、落葉樹の多い林に生息する。人工林化の影響で、宿主であるセンダイムシクイが減少しており、ツツドリの個体数も減少している。

執筆者 (沼野正博)



## 参考文献・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真: 藏重麗子提供 (県外撮影)

カッコウ *Cuculus canorus* Linnaeus, 1758 カッコウ目 カッコウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

九州以北に、夏鳥として渡来する。主にモズ類、ホオジロ類等に託卵する。

**選定理由** 和歌山県内では、護摩壇山や高野山周辺の落葉樹林帯とその周辺の林縁部に生息する。ニホンジカの食害でササ類や灌木が激減し、この地域の宿主の生息数が減少しており、カッコウの個体数も減少している。

執筆者 (沼野正博)



## 参考文献・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真: 沼野正博撮影 (県外撮影)

ヒメアマツバメ *Apus nipalensis* (Hodgson, 1837) アマツバメ目 アマツバメ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

本州中部以南に、留鳥として生息する。太平洋側に多い。建物の軒下や橋の下に、集団で巣をかける。

**選定理由** 和歌山県内では、1980年代より各地で繁殖が確認されるようになったが、近年は繁殖が確認できなくなった場所も多い。

執筆者 (沼野正博)



参考文献  
・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
- 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
- 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
- 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.

写真：沼野正博撮影

イカルチドリ *Charadrius placidus* J. E. & G. R. Gray, 1863 チドリ目 チドリ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

九州以北の、河川の中流域に留鳥として生息する。河川敷や中州などの砂礫地に巣を作り、繁殖する。

和歌山県内では、各河川の中流域に留鳥として生息し、繁殖する。河川敷や中州等で繁殖するが、河川改修や繁殖地への人間の立ち入り等により、繁殖適地が減少しており、個体数も減少している。

執筆者 (沼野正博)

参考文献  
・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
- 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
- 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
- 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.

写真：沼野正博撮影

シロチドリ *Charadrius alexandrinus* Linnaeus, 1758 チドリ目 チドリ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------	----	------	------------	---	-------------

九州以北で繁殖し、冬季は本州以南の砂浜や干潟、埋め立て地等に大きな群れをつくる。ゴカイや甲殻類、貝類等を主な餌とする。

和歌山県内では、各地の海岸や干潟で見られる。海岸の砂浜や空き地で繁殖するが、開発やレジャー等による人間の立ち入りによって繁殖適地が激減しており、繁殖個体は非常に稀である。渡りの時期や冬季は、比較的普通に見られる。

執筆者 (沼野正博)

参考文献  
・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人 日本野生生物センター, 東京.
- 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
- 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
- 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
- 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
- 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.

写真：沼野正博撮影



ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i> (Linnaeus, 1758)	タカ目	ミサゴ科			
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	準絶滅危惧 (NT)

全国の海岸、河川、湖沼に生息し、魚を餌とする。海岸や山地の岩棚や樹上に営巣する。北の個体は、冬季に暖地に移動する。

**選定理由** 和歌山県内では、各地の海岸や河川の下流域に、留鳥として生息する。冬季に数が多いので、多くは冬鳥として渡来していると思われる。繁殖期にも、各地で少数が観察されており、繁殖していると考えられるが、巣はほとんど見つからない。



執筆者 (沼野正博)

**参考文献  
・情報**

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人 日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

ハチクマ	<i>Pernis apivorus</i> (Linnaeus, 1758)	タカ目	タカ科			
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	準絶滅危惧 (NT)

本州以北に夏鳥として渡来し、低山の林で繁殖する。昆虫、カエル類、ヘビ類等を餌とし、営巣中はハチの巣を持ち帰ることも多い。生態的上位種であり、森林の荒廃により、全国的に個体数が減少している。

**選定理由** 和歌山県内では、各地に夏鳥として渡来し、繁殖する。紀南に比較的多いが、生息密度は高くない。加太や日の岬等では、春と秋に渡り途中の個体が見られる。



執筆者 (沼野正博)

**参考文献  
・情報**

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人 日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

ツミ <i>Accipiter gularis</i> (Temminck & Schlegel, 1844) タカ目 タカ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—

## 選定理由

日本に生息する最も小型のタカで、全国の平地から山地の林で繁殖する。近年は、都市公園で繁殖するものもある。冬季は暖地に移動し、西南日本では越冬する。主に小鳥を餌とする。生態的上位種であり、個体数が減少している。

和歌山県内では、主に旅鳥または冬鳥として観察される。夏季の観察例もあるが、繁殖は確認されていない。冬季には、各地の平地から山地の林で見られる。加太や日の岬等では、春と秋に渡り途中の個体が見られる。



執筆者 (沼野正博)

## 参考文献・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

ハイタカ <i>Accipiter nisus</i> (Linnaeus, 1758) タカ目 タカ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	準絶滅危惧 (NT)

## 選定理由

本州以北の山地の林で繁殖し、冬季は全国的に見られる。林間や林縁、田畑等で、主に小鳥を餌とする。生態的上位種であり、全国的に個体数が減少している。

和歌山県内では、主に旅鳥または冬鳥として渡来する。繁殖期にも、標高の高い山地で何度か観察されているが、繁殖は確認されていない。冬季には、平地や山地の林で見られる。加太や日の岬等では、春と秋に渡り途中の個体が見られる。



執筆者 (沼野正博)

## 参考文献・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人 日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
  - 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

サシバ *Butastur indicus* (Gmelin, 1788) タカ目 タカ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------	----	------	------------	---	-------------

九州から本州の平地から山地の林に、夏鳥として渡来する。冬は南方に渡り、沖縄では越冬する。湿地や谷地田、水田近くの林で繁殖し、主にカエル類、ヘビ類、昆虫等を餌とする。



生態的上位種で、里山の代表的なタカであるが、開発や里山の荒廃による営巣環境の減少、廃田や農薬等の影響による餌の減少で、全国的に個体数が減少している。国ランクでは、準絶滅危惧から絶滅危惧Ⅱ類にランクアップされた。

和歌山県内では、各地の山地の林に夏鳥として渡来し、繁殖する。他の地域とは異なり、里山ではなく、山地に生息する。紀中以南で、比較的多い。加太や日の岬等では、春と秋に渡り途中の個体が見られる。

執筆者 (沼野正博)

参考文献  
・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人 日本野生生物センター, 東京.
- 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
- 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
- 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
- 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
- 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.

写真：沼野正博撮影

アカゲラ *Dendrocopos major* (Linnaeus, 1758) キツツキ目 キツツキ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—
--------	------------	----	------	------------	---	---

九州以北に留鳥として生息するが、本州中部以北に多く、西南部では少ない。平地から山地の林に生息し、木の中の昆虫を餌とする。



森林環境の良い指標となるが、開発や人工林化の影響で、生息適地が減少している。

和歌山県内では、留鳥として生息するが、数が少ない。護摩壇山では繁殖も確認されているが、他の地域では繁殖期の観察は非常に少ない。

執筆者 (沼野正博)

参考文献  
・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
- 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
- 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
- 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.

写真：沼野正博撮影

オオアカゲラ *Dendrocopos leucotos* (Bechstein, 1803) キツツキ目 キツツキ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

奄美大島以北に、留鳥として生息する。南方のものほど、色が濃い。

森林環境の良い指標となるが、開発や人工林化の影響で、生息適地が減少している。

**選定理由** 和歌山県内では留鳥として生息し、標高の高い落葉樹林帯で見られることが多く、照葉樹林帯では少ない。人工林化の影響で生息適地が減少しており、個体数も減少している。



執筆者 (沼野正博)

## 参考文献・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真: 沼野正博撮

サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus* (Raffles, 1822) スズメ目 サンショウクイ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------	----	------	-------------	---	-------------

本州以南の平地から低山の林に、夏鳥として渡来する。主に落葉樹林に生息し、「ヒリリリ、ヒリリリ」と飛びながらよく鳴く。近年は、亜種リュウキュウサンショウクイが、南方から分布を広げている。

**選定理由** 全国的に個体数の減少が著しく、国ランクでは絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。

和歌山県内では、主に紀北地方の低山から山地の、落葉樹の多い林に夏鳥として渡来する。秋には、各地で渡り途中の群れを見ることもある。以前は普通に繁殖していたが、一時繁殖個体が非常に減少したため、これまで絶滅危惧Ⅱ類に選定していたが、近年回復傾向にあるため、準絶滅危惧にランクダウンさせた。



執筆者 (沼野正博)

## 参考文献・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人日本野生生物センター, 東京.
  - 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
  - 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人日本野鳥の会, 東京.
  - 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真: 沼野正博撮影

コシアカツバメ *Hirundo daurica* Linnaeus, 1771 スズメ目 ツバメ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—
--------	------------	----	------	------------	---	---

九州以北に、夏鳥として渡来する。家屋等にとっくり型の巣を作り、繁殖する。

和歌山県内では、山間地のコンクリートの建物等に営巣している。以前は、もっと海岸近くの地域でも繁殖していたが、現在は山間地に限定されている。そのため、個体数が減少している。渡りの時期には、農耕地や海岸付近でも見られる。

選定理由

執筆者 (沼野正博)



参考文献・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

トラツグミ *Zoothera dauma* (Latham, 1790) スズメ目 ヒタキ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—
--------	------------	----	------	------------	---	---

全国をよく茂った林に棲み、繁殖する。ミミズ等を餌とし、夜に「ヒョー、ヒョー」と口笛のような声で鳴く。北の個体は、冬季に暖地に移動する。

和歌山県内では、各地の平地から山地の林に、留鳥として生息するが、生息適地が減少しており、個体数も減少している。冬季には、人里近くでも見られる。

選定理由

執筆者 (沼野正博)



参考文献・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
  - 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
  - 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人日本野鳥の会, 東京.
  - 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 写真：沼野正博撮影

クロツグミ *Turdus cardis* Temminck, 1831 スズメ目 ヒタキ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—
--------	------------	----	------	------------	---	---

九州以北に夏鳥として渡来し、平地から山地の林に生息する。よく茂った、落葉樹の多い林で見られることが多く、ミミズ等を餌とする。

選定理由

和歌山県内では、山地のよく茂った、落葉樹の多い林で繁殖するが、個体数が減少している。

執筆者 (沼野正博)



## 参考文献・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
- 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
- 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
- 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.

写真：上野憲三提供

### コサメビタキ *Muscicapa dauurica* Pallas, 1811 スズメ目 ヒタキ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

## 選定理由

夏鳥として、全国に渡来する。主に山地の広葉樹林に生息し、昆虫やクモ等を餌とする。

和歌山県内では、山地の落葉樹の多い林に渡来し、繁殖する。近年、開発や人工林化等の影響で生息適地が減少しており、繁殖個体は激減している。渡りの時期には、各地で比較的普通に見られる。

執筆者 (沼野正博)



## 参考文献・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
- 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
- 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
- 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.

写真：沼野正博撮影

### カンムリウミスズメ *Synthliboramphus wumizusume* (Temminck, 1836) チドリ目 ウミスズメ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-----------	----	------	---	---	-------------

## 選定理由

日本近海の島で繁殖し、冬季は本州中部以南の沖合で越冬する。繁殖地は、伊豆諸島、三重県、高知県、宮崎県、石川県、福岡県で確認されている。3月下旬に産卵し、抱卵期間は約1ヶ月、ふ化後すぐに海に移動する。

和歌山県内では、稀に海上で観察されるが、潮岬周辺での記録が多い。繁殖期の頃にも観察されていることから、繁殖調査を実施し、巣穴と思われる痕跡も確認したが、繁殖確認はできなかった。今後調査を続け、繁殖確認ができれば、絶滅危惧種への掲載が必要と思われる。

執筆者 (沼野正博)



## 参考文献・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人 日本野生生物センター, 東京.
- 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
- 3 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
- 4 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
- 5 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
- 6 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.

写真：沼野正博撮影 (県外撮影)

シマクイナ *Coturnicops exquisitus* (Swinhoe, 1873) ツル目 クイナ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I B 類 (EN)
--------	-----------	----	------	---	---	-----------------

選定理由

中国東北部やロシア沿海地方等で繁殖し、冬季は南方に移動する種とされているが、観察が非常に難しいため、詳細は不明であった。近年、北海道と青森県で繁殖が確認され、関東地方や九州北部で越冬が確認されるようになった。

和歌山県では迷行種とされていたが、今回、プレイバック法により調査したところ、串本町・太地町・那智勝浦町の5箇所で15個体以上の生息を確認した。継続して越冬している可能性が高いが、調査データが不足しているため、情報不足として記載する。調査データの蓄積により、継続して越冬していることが確認できれば、越冬環境保全のためにも、絶滅危惧種への掲載が必要と思われる。



執筆者 (沼野正博)

参考文献・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類. 278pp. 財団法人日本野生生物センター, 東京.
- 2 環境省自然保護局野生生物課. 2020. 鳥類レッドリスト. 環境省自然保護局野生生物課, 東京.
- 3 北沢宗大・吉岡俊朗. 2021. 九州北部におけるシマクイナの越冬を示唆する記録. Bird Research, 17 : S13-S18.
- 4 松宮裕秋・沼野正博. 2022. 中部地方および近畿地方の太平洋岸地域におけるシマクイナの越冬状況. Bird Research 18, : A87-A97.
- 5 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
- 6 Senzaki, M., Kitazawa, M., Sadakuni, T. & Takahashi, M. 2021. Breeding evidence of the vulnerable Swinhoe's Rail (*Coturnicops exquisitus*) in Japan. Wilson Journal of Ornithology, 132 (3) : 711-717
- 7 高橋雅雄・蛭名純一・宮 彰男・磯貝和秀・古山 隆・高田哲良・堀越雅晴・大江千尋・叶内拓哉. 2018. 関東地方におけるシマクイナ *Coturnicops exquisitus* の冬季の生息状況. 日本鳥学会誌, 67 (1) : 109-116.
- 8 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人日本野鳥の会, 東京. 写真: 松宮裕秋提供

ウミネコ *Larus crassirostris* Vieillot, 1818 チドリ目 カモメ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

日本とその周辺の地域でのみ繁殖するカモメの仲間、冬季は本州以南の各地で越冬する。

和歌山県内では、冬季は県内全域に生息するが、繁殖は由良町と美浜町の島や海岸に限定される。現在、鹿尾菜島（由良町）のコロニーが最も大きく、白崎海岸付近でも少数が繁殖する。以前は蟹取島（美浜町）でも繁殖していたが、現在は見られない。西南日本の太平洋側では唯一の繁殖コロニーであり、学術的価値が非常に高い。個体数は安定しており、繁殖環境も今のところ安定している。



執筆者 (沼野正博)

参考文献・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
- 2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.
- 3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人日本野鳥の会, 東京.

参考文献  
・情報

- 4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.  
写真：沼野正博撮影

アマツバメ	<i>Apus pacificus</i> (Latham, 1801)	アマツバメ目	アマツバメ科			
県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	—

鳥  
類

選定理由

全国に夏鳥として渡来し、主に海岸や高山の崖に集団で営巣する。鎌状の細長い翼を持ち、飛翔力に優れており、繁殖期以外はほとんど止まらず飛び続ける。

和歌山県内では、紀南の島や海岸で繁殖している。主な繁殖コロニーは、白島（串本町）、九龍島（串本町）、橋杭岩（串本町）、山成島（那智勝浦町）、沖の黒島（すさみ町）等が知られている。繁殖コロニーは全国に存在するが、非常に局所的であり、紀南地方の繁殖コロニーは貴重な存在である。



執筆者（沼野正博）

参考文献  
・情報

- 1 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 1998. 山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.  
2 沼野正博. 2018. 和歌山県鳥類目録. 21pp. 和歌山県立日高高等学校生物部・日本野鳥の会和歌山県支部, 御坊.  
3 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 374pp. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.  
4 山岸 哲・江崎保男・和田 岳. 2002. 近畿地区鳥類レッドデータブック. 225pp. 京都大学学術出版会, 京都.  
写真：沼野正博撮影